

# 奈良国立文化財研究所要項

## I 事業概要

### 1 研究普及事業

#### 公開講演会

- (1) 1978年5月20日 第43回公開講演会  
「大官大寺について」 甲斐 忠彦  
「近年の民家調査とその成果について」  
吉田 靖
- (2) 1978年11月11日 第44回公開講演会  
「平城宮朝堂の諸問題」 今泉 隆雄  
「古代国庁の構造について」 菅原 正明

#### 現地説明会

- (1) 1978年5月13日 山田寺発掘調査現地説明会  
上野 邦一
- (2) 1978年6月24日 平城宮第2次朝堂院東第2  
堂発掘調査現地説明会 巽 淳一郎
- (3) 1978年9月30日 平城宮東院園池北方発掘調  
査現地説明会 中村 友博
- (4) 1978年10月28日 大官大寺塔回廊発掘調査現  
地説明会 松村 恵司  
藤原宮第24次発掘調査現地

#### 説明会

西口 寿生

- (5) 1978年12月16日 平城宮第2次大極殿発掘調  
査現地説明会 井上 和人
- (6) 1979年1月30日～31日 「石のカタト」古墳  
発掘調査現地説明会 金子 裕之・立木 修
- (7) 1979年3月16日 飛鳥寺発掘調査現地説明会  
山崎 信二
- (8) 1979年3月17日 「石のカタト」古墳発掘調  
査現地説明会 金子 裕之

#### 平城宮跡資料館・覆屋公開

- (1) 春季特別公開 1978年4月29日～5月7日  
見学者 8,119名
- 秋季特別公開 1978年10月21日～11月5日  
見学者 12,898名

#### (2) 見学者数

区 分	資料館	覆 屋	計
1978年	49,729	52,328	102,057
累 計	286,181	581,298	867,479

\*資料館は1970年度・覆屋は1968年度以降

### 2 1978年度文部省科学研究費補助金による研究

種 別	研 究 課 題	研 究 代 表 者	交 付 額
特 定 研 究 (1)	遺構の埋蔵環境と劣化現象ならびに保存処理に関する研究	佐原 真	3,500千円
〃	写真測量による建造物の経年変化の研究	工藤圭章	4,500
〃	地下遺構の探査法の開発	田中 琢	1,000
〃	遺跡に関する情報の活用システムの基礎的研究	田中 琢	2,000
〃	石器製作に関する科学的分析法の研究	松沢 垂生	2,600
一 般 研 究 (A)	白柘磨崖仏の復元的研究	星山晋也	500
一 般 研 究 (B)	三手先構造の変遷に関する調査研究	工藤圭章	800
一 般 研 究 (C)	わが国古代における建築物造営供養の考古学的研究	森 郁夫	200
〃	弥生時代の地域性に関する研究	工楽善通	200
〃	魏晋南北朝時代墳墓の構造的な研究	町田 章	1,800
〃	飛鳥時代石造物の研究	猪熊兼勝	1,700
一 般 研 究 (D)	東大寺文書の基礎的研究—とくに起請文を中心として—	綾村 宏	420
〃	供獻形盛土器の研究 (弥生・古墳時代を中心として)	甲斐忠彦	380
〃	中国、朝鮮の埴と日本の埴の比較研究	田辺征夫	440
奨 励 研 究 (A)	金銅冠の系譜的研究	毛利光俊彦	350
〃	金銅技術の研究		
〃	—古墳時代における技術の系譜関係を中心—	小林 謙一	350
〃	製塩土器からみた塩の消費と流通に関する研究	岩本正二	350
〃	番付の発展過程の研究	清水真一	390
〃	墨書土器の記載内容にみる出土遺跡の性格の分析	井上 和人	350

3 飛鳥資料館の運営

展 示

第一展示室 常設展示

第二展示室 特別陳列「明日香の仏像」

(1978.4.18~1978.5.26)

特別展示「古代の誕生仏」

(1978.9.28~1978.11.19)

普 及

前年同様インフォメーションルームで観覧者の質問に応じている。また特別展示のカタログとして「明日香の仏像」および「古代の誕生仏」を刊行。

入館者数 (1978.4.1~1979.3.31 開館日数303日)

	普通観覧	団体観覧	有料計	無 料	合 計
一 般	44,122	22,420	155,471	6,566	162,037
高・大	13,428	29,456			
小・中	8,538	37,507			
計	66,088	89,383			

模造製作 銅造薬師如来像(頭部)(竜角寺), 如意輪観音半伽像(岡寺), 銅造誕生釈迦仏立像(城陽市), 重要文化財 高松塚古墳 出土品一括のうち海獣葡萄鏡1面 他九点, 高松塚古墳出土品 漆塗木棺断修理, 重要文化財 高松塚古墳 木棺破片修理, 平城京左京三条二坊建物復原模型製作, 平城宮朱雀門模型修理, 坂田寺軒丸瓦軒平瓦複製

4 埋蔵文化財センターの研修・指導

研 修 埋蔵文化財の保護に資することを目的として, おもに地方公共団体の埋蔵文化財保護行政担当者を対象に次の研修を実施した。

- (1) 昭和53年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修 (遺跡調査課程)  
1978年5月8日~5月27日(参加者18名)
- (2) 昭和53年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修 (遺物整理課程)  
1978年6月15日~6月30日(参加者10名)
- (3) 昭和53年度埋蔵文化財発掘技術者特別研修 (第1回特殊調査技術課程)  
1978年7月17日~7月19日(参加者17名)
- (4) 昭和53年度埋蔵文化財発掘技術者一般研修  
1978年7月24日~8月26日(参加者18名)
- (5) 昭和53年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修

(遺跡測量課程)

1978年9月18日~10月28日(参加者8名)

- (6) 昭和53年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修 (遺物保存科学課程)

1978年11月8日~11月22日(参加者8名)

- (7) 昭和53年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修 (自然遺物課程)

1978年12月6日~12月16日(参加者12名)

- (8) 昭和53年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修 (遺跡保存整備課程)

1979年1月22日~1月31日(参加者16名)

- (9) 昭和53年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修 (調査計画課程)

1979年3月1日~3月10日(参加者19名)

- (10) 研修員受入

ア, 松鹿昭二(名張高等学校教諭)

田村輝之(上野市立丸山中学校教諭)

1978年7月3日~9月28日

イ, Gina Lee Barnes(米国ミシガン大学民族学部考古学科博士課程学生)

1978年9月1日~12月31日

ウ, 趙 由典(韓国文化財研究所学芸研究官)

1978年12月26日~1979年4月25日

調査整備等指導

(本文及び研究集報掲載の分を除く)

(北海道)開陽丸埋没遺跡, キウス環状土籬群, (岩手)菟内遺跡, (福島)慧日寺跡石塔, (栃木)下野国府跡, (東京)八王子市瓦窯跡, (新潟)越後国分寺跡, 県内弥生時代遺跡, (福井)岡津塩汲場製塩遺跡, (長野)松本城二の丸跡, 弘法山古墳, 座光寺バイパス関係遺跡, (岐阜)江馬館跡, 美濃須衝窯跡, 老洞窯跡, 美濃国分寺跡, (愛知)大山庵寺, 瓜郷遺跡, 笹池古窯跡群, 尾張国衙跡, (三重)北堀池遺跡, (京都)森本遺跡, (和歌山)根来寺庭園群, 紀伊国分寺跡, (兵庫)千本屋庵寺跡, 大路焼窯, 福本遺跡瓦窯, (鳥取)上原遺跡, (鳥根)富田川河床遺跡, (岡山)寒風古窯跡群, 美作国分寺跡, 鬼城, (山口)長門国府周辺遺跡, 周防国府跡, (香川)県道高松・長尾・大内線建設関係遺跡, (愛媛)長隆寺跡, 永納山古代山城跡, 来住庵寺跡, (福岡)太宰府町水城跡, (佐賀)大和中納言陣跡, 丸山古墳群, (沖縄)ナガラ原貝塚, 具志川島遺跡,

奈良国立文化財研究所要項

座喜味城跡, 仲泊遺跡

埋蔵文化財ニュース刊行

- 第14号 市町村教育委員会による埋蔵文化財関係調査報告書等の刊行 1978年7月20日刊  
 第15号 昭和52年度緊急調査事業種別費用 1978年10月1日刊  
 第16号 遺物・遺構の取りあげ工法 1978年11月10日刊  
 第17号 発掘調査と安全対策 1979年1月15日刊  
 第18号 古代地方官衙遺跡関係文献目録Ⅰ総論・東日本篇 1979年2月28日刊  
 第19号 古代地方官衙遺跡関係文献目録Ⅱ西日本篇 1979年3月31日刊

5 その他

委員会等

- 第5回飛鳥資料館運営協議会  
 1978年5月16日 於飛鳥資料館  
 平城・飛鳥藤原宮跡調査整備指導委員会  
 1978年5月22日・23日 於平城宮跡資料館  
 集落町並保存対策に関する研究集会  
 1979年1月29日・30日 於平城宮跡資料館  
 平城・飛鳥藤原宮跡調査整備指導委員会  
 1979年2月7日 於平城宮跡資料館

外国出張

佐原 真 韓国ユネスコ国内委員会主催の韓国青銅器文化の研究討議に出席及び視察のため大韓民国に派遣。

1978年5月22日～同年5月28日

工業善通 文部省在外研究員として北欧における青銅器文化の比較研究のためスウェーデン・ドイツ連邦共和国・連合王国・フランスに派遣。

1978年8月19日～同年10月19日

安原啓示 中央アジアの考古学的調査のためアフガニスタン・パキスタン・インドに派遣。

1978年8月20日～同年10月30日

沢田正昭 文化財保存修復国際研究会第7回世界大会出席一西ドイツ国立プロイセン博物館群ラトゲン研究所及びローマン・ゲルマン中央博物館訪問一国際博物館保存会議第5回大会出席のため連合王国・ドイツ連邦共和国・ユーゴスラビアに派遣。

1978年9月15日～同年10月10日

上野邦一 ローマ文化財修復国際センターにおける史的記念物の保存に関する研修コース参加の

ためイタリアに派遣。

1978年11月25日～1979年7月2日

田中義恭 「日本木彫展」出品物展示のためドイツ連邦共和国・スイスに派遣。

1978年12月12日～1979年3月31日

協力事業等

文化庁では1971年度から特別史跡藤原宮跡の国有化を進めており、1972年度から当研究所が文化庁から支出委任を受けて買収事務を担当しているが、1978年度の状況は下記の通り

区 分	面 積	購 入 額
1978年	31,665.52㎡	543,949,966円
国有地合計	179,706.05	2,857,271,206

II 図書及び資料

図書 46,250冊

区 分	種 別	購 入	寄 贈	計
1978年	和漢書	936	2,622	3,558
	洋書	936	27	963
累 計	和漢書	25,561	16,891	42,452
	洋書	3,409	389	3,798

写真 179,076点(1978年度末現在)

III 研究成果刊行物

1978年度刊行物

名	称
学報第35冊	研究論集V
学報第36冊	平城宮整備調査報告Ⅰ
史料第14冊	日本美術院彫刻等修理記録V
史料第15冊	東大寺文書目録第1巻
図録第4冊	日本古代の墓誌 銘文編
図録第5冊	古代の誕生仏
基準資料第6冊	瓦編6
概報他	昭和52年度平城宮発掘調査概報 平城宮発掘調査出土土簡概報(12) 第3回土簡研究集会記録 飛鳥・藤原宮発掘調査概報8 藤原宮出土土簡概報(9) 飛鳥編年史料集稿(4) 〃 (10) フィルムリストII

奈良国立文化財研究所年報

前年度までの刊行物

奈良国立文化財研究所学報

年度	名	称
1954	第1冊	仏師運慶の研究
	第2冊	修学院離宮の復原的研究
1955	第3冊	文化史論叢
1956	第4冊	奈良時代僧房の研究
1957	第5冊	飛鳥寺発掘調査報告
1958	第6冊	中世庭園文化史
	第7冊	興福寺食堂発掘調査報告
1959	第8冊	文化史論叢II
	第9冊	川原寺発掘調査報告
1960	第10冊	平城宮跡・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告
1961	第11冊	院家建築の研究
1962	第12冊	巧匠安阿弥陀仏袂慶
	第13冊	寝殿造系庭園の立地的考察
1963	第14冊	レースと金龜舍利塔に関する研究
	第15冊	平城宮発掘調査報告II 官衙地域の調査
	第16冊	平城宮発掘調査報告III 内裏地域の調査
1965	第17冊	平城宮発掘調査報告IV 官衙地域の調査
	第18冊	小堀遠州の作事
1967	第19冊	藤原氏の氏寺とその院家
1969	第20冊	名物裂の成立
1971	第21冊	研究論集I
1973	第22冊	研究論集II
1974	第23冊	平城宮発掘調査報告VI 平城京左京一条三坊の調査
	第24冊	高山一町並調査報告一
1975	第25冊	平城京左京三条二坊
	第26冊	平城宮発掘調査報告VII
	第27冊	飛鳥・藤原宮発掘調査報告I
1976	第28冊	研究論集III
	第29冊	木曾奈良井一町並調査報告一
	第30冊	五条一町並調査の記録一
1977	第31冊	飛鳥・藤原宮発掘調査報告II
	第32冊	研究論集IV
1974	第33冊	イタリア中部の一山岳集落における民家調査報告
	第34冊	平城宮発掘調査報告IX

奈良国立文化財研究所史料

年度	名	称
1954	第1冊	南無阿弥陀仏作善集(複製)
1955	第2冊	西大寺歡尊伝記集成
1963	第3冊	仁和寺史料 寺誌編1
1964	第4冊	俊乗坊重源史料集成
1966	第5冊	平城宮木簡1 図版
1967	第6冊	仁和寺史料 寺誌編2
1969	第5冊	平城宮木簡1 解説(別冊)
1970	第7冊	唐招提寺史料1
1974	第8冊	平城宮木簡2 図版・解説

1975	第9冊	日本美術院彫刻等修理記録I
	第10冊	日本美術院彫刻等修理記録II
1976	第11冊	日本美術院彫刻等修理記録III
1977	第12冊	藤原宮木簡I 図版・解説
	第13冊	日本美術院彫刻等修理記録IV

奈良国立文化財研究所基準資料

年度	名	称
1973	第1冊	瓦編1 解説
1974	第2冊	瓦編2 解説
1775	第3冊	瓦編3
1976	第4冊	瓦編4
	第5冊	瓦編5

飛鳥資料館図録

年度	名	称
1976	第1冊	飛鳥白鳳の在銘金銅仏
	第2冊	飛鳥白鳳の在銘金銅仏 銘文篇
1977	第3冊	日本古代の墓誌

IV 機構・定員

機構の改正

1978年4月5日省令改正に伴い埋蔵文化財センターに情報資料室新設

定員

	指定職	行政一	行政二	研究職	計
1977年度	1	23	7	68	99
1978年度	1	23	6	69	99

(増員内訳) 埋蔵文化財センター 1  
(減員内訳) 庶務部 1

V 予算(1978年度)

歳	出	1,624,527,000円
人件費		358,357,000
運営費		522,264,000
事業管理		9,869,000
一般研究		48,993,000
特別研究		2,144,000
発掘調査		326,115,000
宮跡整備管理		42,420,000
飛鳥資料館運営		45,110,000
埋蔵文化財センター運営		47,613,000
施設費		743,906,000
施設整備費		93,469,000
平城宮跡地等整備費		108,660,000
各所修繕		3,548,000
不動産購入費		538,229,000

奈良国立文化財研究所要項

VI 施設

土地 32,311㎡ (当所所管)

春日野 5,126㎡ 旧病院跡購入 8,860㎡  
 飛鳥資料館 16,902㎡ 飛鳥資料館宿舎 1,343㎡  
 郡山宿舎 80㎡

1,153,365.53㎡ (文化庁所管)

平城宮跡地区 972,788.95㎡  
 (他に奈良県先行取得地32,662.56㎡がある)  
 藤原宮跡地区 179,706.05㎡  
 飛鳥稲洲宮殿跡地 870.53㎡

建 物

建 物	春日野	統 合 移 転 地	平 城	藤 原	飛 鳥 資 料 館	計
	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	㎡
事 務 所	797	6,620	1,820	503	152	9,892
倉庫・収蔵庫	191	—	5,882	1,273	—	7,346
車 庫	20	—	363	217	94	694
会 議 室	40	—	192	—	42	274
講 堂	109	—	—	—	89	198
写 真 室	86	—	192	61	49	388
展 示 室	—	—	360	—	648	1,008
覆屋・展示棟	—	—	1,518	—	—	1,518
そ の 他	200	—	511	152	1,608	2,471
計	1,443	6,620	10,838	2,206	2,682	23,789
重要文化財 旧米谷家住宅						198
合 計						23,987

主要工事

(1) 施設整備費

飛鳥藤原宮跡発掘調査部遺物収蔵庫  
 外新設工事 4,200,000円  
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部構内道路  
 舗装工事 800,000  
 春日野庁舎写場配管工事 63,000  
 春日野庁舎所長室照明器具とりかえ工事  
 55,000

(2) 平城宮跡地等整備費

平城宮跡環境整備昭和53年度  
 第Ⅰ期工事 40,500,000  
 平城宮跡 覆屋便所新設工事 5,164,000  
 “ “ 機械設備工事 1,310,000  
 “ “ 電気工事 222,000  
 昭和53年度藤原宮跡環境整備工事 22,000,000  
 平城宮跡環境整備昭和53年度  
 第Ⅱ期工事 39,000,000  
 藤原宮跡制札屋形移設工事 464,000

(3) 建設省近畿地方建設局委任工事

奈良国立文化財研究所建築改修工事

65,810,000円  
 “ “ 機械 “ 12,350,000  
 “ “ 電気 “ 9,030,000  
 庁 費  
 埋蔵文化財センター研修棟 2,780,000  
 視聴覚教室外建築改修工事  
 “ “ 電気改修工事 500,000  
 “ “ 研修棟建具取設外工事  
 2,000,000  
 “ “ 研修棟空調設備工事  
 10,250,000

VII 人事異動

(1978年4月1日～1979年3月31日)

4月1日 庶務部長に転任 小島 廣治  
 辞職 服部 栄次  
 庶務部会計課長に昇任 金塚 勇  
 京都国立近代美術館庶務課長に転任  
 杉本 光司  
 庶務部庶務課庶務係長に転任  
 萩原 陽雄  
 京都大学(原子エネルギー研究所庶務  
 係長)に外向 山崎 一博  
 東北大学(文学部助教)に外向  
 須藤 隆  
 事務補佐員採用  
 村田 恵子・高田久美子  
 研究補佐員採用  
 立木 修・内田 誠  
 4月5日 飛鳥藤原宮跡発掘調査部考古第二調査  
 室長に昇任 木下 正史  
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部遺構調査室長  
 に昇任 細見 啓三  
 5月1日 庶務部会計課経理係長に配置換  
 西田 健三  
 6月1日 文部技官採用 立木 修  
 9月30日 辞職 東野 治之  
 10月1日 埋蔵文化財センター情報資料室長に昇  
 任 岩本 次郎  
 平城宮跡発掘調査部計測修景調査室長  
 に昇任 田中 哲雄  
 庶務部庶務課課長補佐に昇任

奈良国立文化財研究所年報

- 萩原 陽雄  
 10月1日 文化庁に外向(文化財保護部記念物課)  
 西 弘海  
 12月28日 辞職  
 東田 道代  
 福原まり花  
 藤本 節子  
 1月1日 文部技官採用  
 佐藤 信  
 1月4日 事務補佐員採用  
 牧田 道子  
 2月1日 文部技官に転任  
 清田 善樹  
 3月30日 辞職  
 石田 信子  
 立花 聡  
 辻 秀人  
 3月31日 辞職  
 星山 晋也

Ⅷ 組織規定

文部省設置法 抜萃

昭和24年法律第146号  
 昭和43年6月15日一部改正

- 第36条 第43条に規定するもののほか、文化庁に次の機関を置く。  
 国立文化財研究所(前後略)  
 第41条 国立文化財研究所は、文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行う機関とする。  
 2 国立文化財研究所の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
東京国立文化財研究所	東 京 都
奈良国立文化財研究所	奈 良 市

- 3 国立文化財研究所には、支所を置くことができる。  
 4 国立文化財研究所及びその支所の内部組織は文部省令で定める。

文部省設置法施行規則 抜萃

昭和28年1月13日文部省令第2号、追加昭和43年6月15日文部省令第20号  
 昭和45年4月17日文部省令第11号、昭和48年4月12日文部省令第6号、  
 昭和49年4月11日文部省令第10号、  
 昭和50年4月2日文部省令第13号、  
 昭和51年5月10日文部省令第16号、  
 昭和52年4月18日文部省令第10号、  
 昭和53年4月5日文部省令第20号、

第5章 文化庁の附属機関

第4節 国立文化財研究所

第2款 奈良国立文化財研究所

(所長)

- 第123条 奈良国立文化財研究所に、所長を置く。  
 2 所長は所務を掌理する。

(内部組織)

- 第124条 奈良国立文化財研究所に、庶務部、美術工芸研究室、建造物研究室及び歴史研究室並びに平城宮跡発掘調査部及び飛鳥藤原宮跡発掘調査部を置く。  
 2 前項に定めるもののほか、奈良国立文化財研究所に、飛鳥資料館及び埋蔵文化財センターを置く。

(庶務部の分課及び事務)

- 第125条 庶務部に、次の二課を置く。

- 一 庶務課  
 二 会計課  
 2 庶務課においては、次の事務をつかさどる。  
 一 職員の人事に関する事務を処理すること。  
 二 職員の福利厚生に関する事務を処理すること。  
 三 公文書類の接受及び公印の管守その他庶務に関すること。  
 四 この研究所の所掌事務に関し、連絡調整すること。  
 五 この研究所の所掌に係る遺構及び遺物の保全のための警備に関すること。  
 六 前各号に掲げるもののほか、他の所掌に属しない事務を処理すること。  
 3 会計課においては、次の事務をつかさどる。  
 一 予算に関する事務を処理すること。  
 二 経費及び収入の決算その他会計に関する事務を処理すること。  
 三 行政財産及び物品の管理に関する事務を処理すること。  
 四 庁舎及び設備の維持、管理に関する事務を処理すること。  
 五 庁舎の取締りに関すること。

(美術工芸研究室等の事務)

- 第127条 美術工芸研究室においては、絵画、彫刻、工芸品、書跡その他の有形文化財(次項及び第3項に規定するものを除く)、及び工芸技術に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。  
 2 建造物研究室においては、建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。  
 3 歴史研究室においては、考古及び史跡並びに歴史資料に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。

(平城宮跡発掘調査部の六室及び事務)

- 第128条 平城宮跡発掘調査部に、考古第一調査室、考古第二調査室、考古第三調査室、遺構調査室、計測修景調査室及び史料調査室を置く。  
 2 前項の各室においては、平城宮跡に関し、次項から第六項までに定める事務を処理するほかその発掘を行う。

3 考古第一調査室、考古第二調査室及び考古第三調査室においては、別に定めるところにより分担して、遺物（木簡を除く）の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行なう。

4 遺構調査室においては、遺構の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行なう。

5 計測修景調査室においては、遺構の計測及び修景並びにこれらに関する調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

6 史料調査室においては、木簡の保存整理及び調査研究、史料の収集及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

（飛鳥藤原宮跡発掘調査部の四室及び事務）

第129条 飛鳥藤原宮跡発掘調査部に、考古第一調査室、考古第二調査室、遺構調査室及び史料調査室を置く。

2 前項の各室においては、藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡に関し、次項から第五項までに定める事務を処理するほか、その発掘を行う。

3 考古第一調査室及び考古第二調査室においては、別に定めるところにより分担して、遺物（木簡を除く。）の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

4 遺構調査室においては、遺構の保存整理及び調査研究、遺構の計測及び修景並びにこれらに関する調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

5 史料調査室においては、木簡の保存整理及び調査研究、史料の収集及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

（飛鳥資料館）

第130条 飛鳥資料館においては、飛鳥地域の歴史的意義及び文化財に関し、国民の理解を深めるため、この地域に関する考古資料、歴史資料その他の資料を収集し、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれらに関する調査研究及び事業を行う。

（飛鳥資料館の館長）

第131条 飛鳥資料館に、館長を置く。

2 館長は、館務を掌理する

（飛鳥資料館の二室及び事務）

第132条 飛鳥資料館に、庶務室及び学芸室を置く。

2 庶務室においては、飛鳥資料館の庶務、会計等に関する事務を処理する。

3 学芸室においては、次の事務をつかさどる。

一 飛鳥地域に関する考古資料、歴史資料、建造物、絵画、彫刻、典籍、古文書その他の資料の収集、保管、展示、模写、模造、写真の作成、調査研究及び解説を行うこと。

二 飛鳥地域に関する図書、写真その他の資料の収集、整理、保管、展示、閲覧及び調査研究を行うこと。

三 飛鳥資料館の事業に関する出版物の編集及び刊行並びに普及宣伝を行うこと。

（埋蔵文化財センター）

第133条 埋蔵文化財センターにおいては、次の事務をつかさどる。

一 埋蔵文化財に関し、調査研究及びその結果の公表を行うこと。

二 埋蔵文化財の調査及び保存整理に関し、地方公共団体の埋蔵文化財調査関係職員その他の関係者に対して、専門的、技術的な研修を行うこと。

三 埋蔵文化財の調査及び保存整理に関し、地方公共団体の機関その他関係の機関及び団体等の求めに応じ、専門的、技術的な指導及び助言を行うこと。

四 埋蔵文化財に関する情報資料の作成、収集、整理、保管及び調査研究を行い、並びに地方公共団体の機関その他関係の機関及び団体等の求めに応じ、その利用に供すること。

（埋蔵文化財センターの長）

第134条 埋蔵文化財センターに長を置く。

2 前項の長は、埋蔵文化財センターの事務を掌理する。

（埋蔵文化財センターの内部組織）

第135条 埋蔵文化財センターに、教務室、研究指導部及び情報資料室を置く。

（教務室の事務）

第136条 教務室においては、研修の実施に関する事務を処理するほか、埋蔵文化財センターの庶務に関する事務をつかさどる。

（研究指導部の五室及び事務）

第137条 研究指導部に、考古計画研究室、集落遺跡研究室、遺物処理研究室、測量研究室及び保存工学研究室を置く。

2 考古計画研究室においては、第133条第1号から第3号までに掲げる事務（他の室の所掌に属するものを除く。）をつかさどる。

3 集落遺跡研究室においては、集落遺跡に関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務（遺物処理研究室、測量研究室及び保存工学研究室の所掌に属するものを除く。）をつかさどる。

4 遺物処理研究室においては、遺物の処理に関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務をつかさどる。

5 測量研究室においては、埋蔵文化財の測量に関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務をつかさどる。

6 保存工学研究室においては、遺跡の保存整備に関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務をつかさどる。

第138条 情報資料室においては、第133条4号に掲げる事務をつかさどる。





所属	氏名	官職	担当
飛鳥原官跡発掘調査部	工藤圭章	文部技官部長	古古古真
	藤越口上	文部技官室長	考古考写
	佐西井上	文部技官室長	古古古真
	木下野泉	文部技官室長	古築史古
	今野千	文部技官室長	考建築考
	細見三彦	文部技官室長	建築考古
	伊藤肥村	文部技官室長	建築考古
	加藤高木	文部技官室長	史古築古
	黒松小林	文部技官室長	史古築古
	加藤西谷	文部事務官(兼任)	事務事務
	大石稲垣	文部事務官(兼任)	事務事務
	望月富川	文部事務官(兼任)	事務事務
	瀨田内泉	文部事務官(兼任)	事務事務
	盛	文部事務官(兼任)	事務事務
	押井清足	文部技官館長(取扱)	事務施設
飛鳥資料館	森大飯	文部技官室長	事務施設
	西田千鶴	文部技官室長	事務施設
	飯田千鶴	文部技官室長	事務施設
	米田千鶴	文部技官室長	事務施設
	吉藤千鶴	文部技官室長	事務施設
	藤本千鶴	文部技官室長	事務施設
	福井千鶴	文部技官室長	事務施設
	節之儀	文部技官室長	事務施設
	末信三子	文部技官室長	事務施設
	照子雄清	文部技官室長	事務施設
	子雄清	文部技官室長	事務施設
	子雄清	文部技官室長	事務施設
	子雄清	文部技官室長	事務施設
	子雄清	文部技官室長	事務施設

所属	氏名	官職	担当
飛鳥資料館	猪熊勝潔	文部技官室長	考古古及古
	大津志夫	文部技官室長	考古古及古
	藤沢一	文部技官室長	考古古及古
	田中稔	文部技官室長	事務事務
	織井弘雅	文部技官室長	事務事務
	小島弘美	文部技官室長	事務事務
	田中琢	文部技官室長	事務事務
	松沢垂生	文部技官室長	事務事務
	岩本圭輔	文部技官室長	事務事務
	佐原真二	文部技官室長	事務事務
	山崎信二	文部技官室長	事務事務
	町田章隆	文部技官室長	事務事務
	秋田正昭	文部技官室長	事務事務
	木全敬二	文部技官室長	事務事務
	岩伊東	文部技官室長	事務事務
西村康	文部技官室長	事務事務	
安原啓示	文部技官室長	事務事務	
飛鳥資料館	伊東作太郎	文部技官室長	事務事務
	沢村正昭	文部技官室長	事務事務
	岩本次郎	文部技官室長	事務事務
	山中敏	文部技官室長	事務事務
	伊東作太郎	文部技官室長	事務事務
	沢村正昭	文部技官室長	事務事務
	岩本次郎	文部技官室長	事務事務
	山中敏	文部技官室長	事務事務
	伊東作太郎	文部技官室長	事務事務
	沢村正昭	文部技官室長	事務事務
	岩本次郎	文部技官室長	事務事務
	山中敏	文部技官室長	事務事務
	伊東作太郎	文部技官室長	事務事務

機構

